

寺
こよみ

十月

- 一日 板屋お講
 - 三日 花の会
 - 八日 清掃奉仕
 - 一〇日 富山・滑川報恩講
 - 十一日 お道具磨き
 - お経会
 - 一二日 魚津報恩講
 - 一六日 三日市お講
 - 一七日 米とぎ・連研
 - 一八日 お華束など準備
 - 一九日 報恩講速夜お初夜
 - 二〇日 報恩講日中お満座
 - 二四日 経田柳沢窪野田家
 - 二五日 上下飯野高畠新浜
 - 二六日 東狐・青木報恩講
 - 三〇日 板屋報恩講
- (門徒報恩講は「報恩講」を省略する場合があります)

寺報 善 巧

発行
〒938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール yukinko@nightland.net

十月十九・二十日
報 恩 講
十一月四・五日
空 華 忌



花の会20周年記念

何年前のことだったでしょう。新聞の投書欄に目をやると「おとりこし」というテーマが目に入りました。三十代の女性の投書だったと思います。記憶を頼りに要約すると、次のような内容でした。

私の故郷の北陸では毎年「おとりこし」という仏事が行われます。近隣の方々や親戚など、それに嫁いだ娘たちも里帰りをしてお仏間に集うのです。皆がいつしよになつて「しょうしんげ」というお勤めをします。私は記事を読みながら思わず「うんうん」と頷きました。投書は続きます。

「おとりこし」は「ほんこさん」とも言います。私はまた「そうそう」と頷きました。ところが投書の最後には、
「おとりこしとは、ご先祖のお祭りなのです。」
私の頭はガンと鳴りました。親鸞聖人のことが忘

報 恩 講

れられてしまったのです。
永仁二年(一二九四)親鸞聖人三十三回忌の折、二十五歳の覚如上人は親鸞聖人の遺徳を讃えられて『報恩講私記』という書物を書かれました。この時から親鸞聖人のお仏事を「報恩講」と言うようになったのです。また、一般の寺院やご門徒のご家庭では「正忌に先立つてお勤めをするから「お取り越し」とも申すのです。

親鸞聖人を浄土真宗の開祖と仰ぐ歴史は覚如上人によつて始まったと言っても過言ではありません。覚如上人のご一生は親鸞聖人のご一流を護り抜くことに貫かれたものでした。

今年は第三代覚如上人の六百五十回忌に当たります。何とぞ報恩講をお勤めなさる折には、覚如上人のご苦心も心に留めて頂きたいのです。報恩講は覚如上人によつて始まったのですから。

光照寺住職 若林眞人



空華忌講話

(平成十一年十一月)

山本攝叡先生

行信教校教授
定専坊住職

「みょうのしょうらん」というのは、もともとひらがなで書いてありますけれども、漢字で書きますと、「照らし見る」という「冥の照覧」という字をあてはめるんでしょうかね。

さて、「冥」というのは、真宗ではこれに「加」という字を加えて「冥加」という言葉がよく使ったんですよ。ところがつい半年ほど前学生の方々に「冥加」という言葉をご存じでしうかと聞きましたら、知ら

か。ご家庭でも現在使われますか。あるいは、昔はよく聞いたとか両親からよく聞かされたとかそういう風な使われ方でしょうか。今はもう若い子供さん方には「冥加」という言葉はあまり使われませんでしょうかね。残念ながらそういう傾向が増えてきたと思うんですね。

具体的には「冥加」というのは「目に見えない」ということなんです。だから目には見えないけれども仏さまのご加護があるんだよということがこの「冥加」という言葉だったんです。私にとっては目に見えるものではないんだけど、常に仏さまのまなざしというものがこの私のことを照らしごらんになっていらっしゃるんだという言葉、そ

みょうのしょうらんと存じ候ふて
ひと知り候はずとも悪しきことをば
ひるがえし候ふべきこと

れが「冥の照覧」と道宗が表現なさった言葉なんです。道宗の一つの道徳の実践については、この「冥の照覧」ということ、冥加ということが、いつも基本にあつたと思うんですね。それは具体的に申しますと、皆さん方は、というよりも私が間違ひなく思うから自信を持ってそう言えるんですけど、これは絶対に人に見つからない保証する百パーセントゼロ、何パーセントの間違ひもなくこれは人に見つかることがないんだという保証があつたならば、おそらく私は百パーセント悪いことをするでしょうな。自分の得になるようなことだった。ここにある何かお金か宝石かわからんけれども、これ黙って持つていてもひょっとしたら人に見つかるかもしれん、人に何か言われるかもしれんというブレーキがあるから私はしないんで、絶対にこれは

持つていつてもわかりませんよと言われたら、私は絶対持つていきます。(笑) 皆さんはどうでしょうか。私は人間の心はそんなに強いもんじゃないと思うんですよ。一つブレーキがはずれてしまつてね、これはどんな悪循環：だいたい私たちが多くの人間はおかげさまで世間に後ろ指をさされるようなことはしなくてもすんでるわけですけども、それはまさしく親鸞聖人がおっしゃったように、私自身が善人であるから私自身の心が清いから悪事をしないんじゃないかって、この私自身が一つ歯車が狂うて一つそんな機縁に恵まれたら、どんなことをしでかす自分かわからないんだ、だからこそこの私の上には「冥の照覧」という、たとえば世間からは後ろ指さされることがないかもしれない、たとえば人さまにはここまでしても何も言われることがないかもしれないけれども、しかし仏さまの目だけはごまかす

ことができないんだよ、常に仏さまはあなたのことを見ていらつしやるんだよ、もしもあなたが世間様にはわからないかもしれないけれども、仏さまの目にそむくようなことがあったならば、それは仏さまの加護に見放されるようなことになりかねないよ、ということ

句といえますかな、そういう風な一つの決定的な言葉として生きておった時代があったんですね。これは今言いましたように、たとえば世間に見放されるようなことはないかもしれないけれども、今あなたがしておるその行動、行為というものはもう今まで目には見えないけれどもあなたのことをずっと見守り続けてくださったその仏さまの目に対して恥じるような行いでないかという

私もおかげさんでこの言葉で育てられた最後の世代かもしれないと思うんですけれども、子供の頃は家の祖母からしょっちゅう言われましたんですよ。何かあったらなにかしたら「そんなことしとつたら冥加につきるで」。まだ小さい子供です

ですから、この六条のところで、道宗は「冥の照覧と存じ候ふて人知り候はずとも悪しきことをばひるがえし候ふべきこと」、たとえ人が私のことを知らなかったとしても、この良くない行い悪い行いこの行動を必ずひるがえさなければなりません、という言葉が、道宗という方の道徳を作った

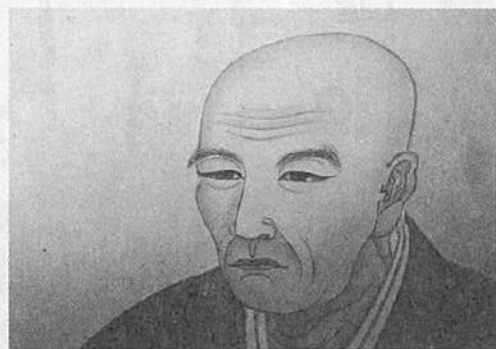
「冥加」という言葉があったらピシッとね、これは絶対ここから先はしてはいけないんだ、これは今とんでもないことをしてしまつたんだという決まり文

です。近もよく言われますけれどもね、これは別に仏教に限らずともどんな宗教であっても大きな自分自身を規制する眼差し、自分自身を見つめる目、もつと言つたら、人間以上のものに対する畏敬というんですかね、そういうような心情を持たなく

わねなんですね。これは最近もよく言われますけれどもね、これは別に仏教に限らずともどんな宗教であっても大きな自分自身を規制する眼差し、自分自身を見つめる目、もつと言つたら、人間以上のものに対する畏敬というんですかね、そういうような心情を持たなく

行信教校から聖跡参拝

ここ数年、行信教校・学院の学生さん達が空華忌に参拝してくださっています。と利井明弘校長からお知らせが、「今後三年に一度、空



明教院僧師法師

僧師(そうし) 本願寺派空華学(がく)の祖。名は慶(けい)叟(そう)。字は子(こ)練(れん)。甘露室(かんろうしつ)・空華(くわ)盧(ろ)、雪山(せきざん)と号した。越中・水橋の農家に生まれ、幼名を渡辺(わたべ)三吉(みきち)と称した。十一歳で上市・明光寺(めいこうじ)の靈潭(りやうたん)師(し)につき、二十一歳で善巧寺(ぜんこうじ)の法嗣(ほふし)・京都・学林(がくりん)にて僧撰(そうせん)師(し)の門人となり、のち自坊(みづか)に空華(くわ)盧(ろ)を設けて学僧(がくそう)を教育、その門弟は全国三千人に及ぶといわれる。天明三年(1812)六十一歳で入寂(にじやく)。明教院(めいけういん)と諡(し)号せらる。

空 華 語 録

仏像ものいわず、經典口なし。よりて高祖真影の御影を、末々へ与え給う正意は、あなたの御安心を我等衆生へそのなりくだされん為に御相(ごそう)を見せたまう。よりてあなたの御名代して、あなたの御(ご)ころを門徒(もんた)在家(け)へ伝(でん)へかしむ。しかれば仏像口なく、經典ものいはざるは、法中(ほふちゆう)の口音陳説(ごんしんてんせつ)をひとえにたのみの思召(おもひめがね)あらせらるる事なり。末世(まうせい)代、かく繁昌(はんしやう)の御宗風(ごそうふう)なれども、まだおもいうやうにゆきわたらせられぬは、だれが所為(しよゐ)なりや、我(われ)も人も、この所を慚愧(さんけい)して、随分(ずいぶん)く御遺訓(ごいうくん)のそのなりを、弘伝(くわでん)いたしたきもの、予(よ)や、かくもうすも、おそれあることなれども、年長(としなが)にて御法中(ごほふちゆう)に相談(そうだん)す云云。(悲泣(かなしみ)雨涙(あまなみ)あり)

正信念仏(しやうしんねんぶつ)偈(ぎ)聞書(もんしよ)より



空華(くわ)盧(ろ)の焼印(やういん)



神子 巧照さん (照行寺若院)
清水満美子さん

富山本願寺で仏前結婚 9/16

祝

村上信夫
NHKアナ
トーク
ショー 8/2
お菓子を味
わい人生を味
わいながら、
仏さまの真実
に触れて二十
年。これを記
念して花の会
がトークショ
ーを企画。
八月二日夕、
百四十人の善
男善女が会館
に集まって、
トークとお菓
子と花々を満
喫しました。

花の会

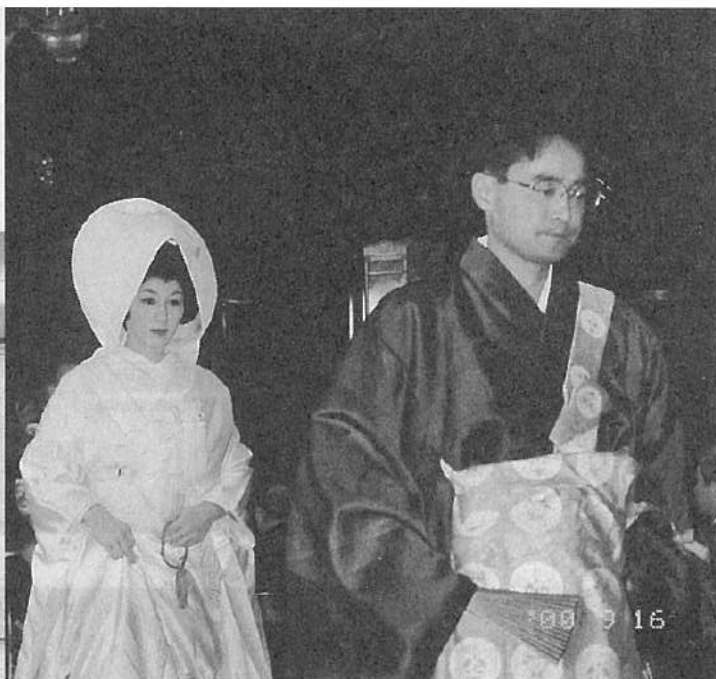
二十周年



先日は お世話になりました。
あたたかい 空気に 包まれて、とても
楽しいひとときでした。
僕もいろんなところで 話す機会が
ありますが、あれほど 話しやすい
雰囲気は ありませんでした。
これも 隆弘さんの 'ようこそようこそ、
精神' が 生きて いるのでしょう。
隆弘さんの 導きで、今回の トークが
実現したのだと思います。
下関公演の 成功 お祈りに します。
まずは、御礼です。 寺のみなさん



おめでとう！ たくちゃん まみちゃん



九月十六日、
照行寺若院・神
子巧照さんと清
水満美子さんの
結婚式が行われ
ました。巧照さ
んの友人僧侶達
による雅楽の調
べの中色衣五条
袴姿の新郎と白
無垢姿の新婦が
入堂。阿弥陀様
の前で誓いの言
葉を述べました。

その言葉を
聞いたのは、
まだ駆け出し
のアナウンサー
のころだった。
「NHKのア
ナウンサーつ
てどうして天
気の話をする
の？」「天気
に良い悪いは
無いはずだよ
ね。良い悪い
で、自分にと
つての悪いこ
とを基準で言っ
てるのところが
うかい？」
「人を指さす
のはやめた方
がいいよ。だっ
て見てごらん、
ほら中指と薬指と小指が自分の方を向くだろう？人を指さす
と三倍になって自分に跳ね返ってくるんだよ。」
二十年近くたった今も、その日のことは、心に深く刻まれている。マイク
に向かいながら、雪山さんの言葉を反すうしている。アナウンサーとしての
原点になった出会いとも言える。
だが、雪山さんはその後病に倒れ、天折した。もっとももっといろんな「こ
とば」を教えてほしかった。あの人なつつこい笑顔で元気づけてほしかった。
残念でならない。

（村上信夫著『元氣のでてくることばたち』より抜粋）





仏婦新役員代表のお焼香



仏婦新旧役員による献灯献花



盆踊りを支える夢を語る会、お寺の学校OB・OG達



お満座では浦山新の鬼原勝次さんに感謝状を贈呈、長年のご尽力を讃え、感謝の心を表しました。



☆永代祠堂会

七月十九日から四日間、例年通り祠堂会が勤まりました。初日の仏婦の日には新旧役員が献灯献花をして気持ちを新たにしました。

☆こども盆踊り

こども達が待ちに待ったこども盆踊りは、八月十五日開催。たいこを合図にゆかた姿のこども達がいちよのまわりをおどり、夢を語る会、花の会、お寺の学校卒業生の協力による夜店で楽しみました。



箱根路や

幾曲がりして

萩の道

芦ノ湖の

眼下に見えて

秋の旅

喜子

寺

十一月

一日 愛本新お講

二日 総代空華忌打合せ

三日 空華忌米とぎ

四日 空華忌お初夜

五日 空華忌日中満座

七日 上野報恩講

九日 中新報恩講

一三日 出報恩講

一六日 浦山新お講

一七日 中陣報恩講

一八日 中陣報恩講

二一日 析沢報恩講・連研

二二日 析沢報恩講

二四日 石田報恩講

二五日 雪ん子田家小公演

二七日 浦山新報恩講

二八日 浦山新報恩講

二九日 組仏婦十周年打合

「ビハラー山口」さんに招かれて 8/6

二年越しのお申し越しであつた下関海峡メッセホールでの公演。皆さんの熱意

とぬくもりの中で、感動の舞台を体験させてもらいました。



「雪ん子劇団」公演事務局

三原 総明

ジュニアのみなさんへ

遠いところまで、やって来てくれてありがとう。もうつかれはとれましたか。山口より宇奈月のほうがすずしいですか。

秋芳洞（しゅうほうどう）やサファリパークはおもしろかったですか。

みんなのぶたいをみて、山口のこどももおともみんな、とてもびつくりしていました。どれだけ楽しゅうしたら、あんなにじょうずになれるのかなあ、と感心していました。

とくに、「こども落語」がたのしかったようです。

また、「うちのとうちゃんえらいんだ」では、みんなの手話におどろいたり、自分のうちのおとうさんもえらいんだと、きづいた子もいました。

山口の子どもたちに、楽しい夏休みのおもいでを、プレゼントしてくれて、ほんとうにありがとう。

ジュニアの皆さんへ

皆さん大変お疲れさまでした。そしてありがとうございました。地元から連れていった子どもたちが、「すごい」と言つて、目を輝かせていました。引率の大人たちは、涙で目を光らせていました。そして、みんな「ハッピーゲーム」ということばと、喜び探しゲームを覚えしました。私たちにとつて、この公演が、この夏の喜び探しとなりました。本当にみんなありがとう。こんなすばらしい舞台のお手伝いができたことは、この私にとつても光栄であり、喜びです。

もう一度、一緒に公演を行うことができれば、どんなに楽しいでしょう。そんな日が来ることを念願し、お礼申し上げます。

寺
こよみ

十二月

一日 下立愛本お講

二日 愛本新報恩講

三日 越冬清掃奉仕

四日 愛本新・中之口

赤田報恩講

花の会

五日 下村・大橋報恩講

六日 下村報恩講

八日 下村報恩講

九日 下村報恩講

一日 内山報恩講

一三日 下立愛本報恩講

一四日 下立愛本報恩講

一六日 浦山お講

一六日 黒西組街頭募金

一七日 お経会

一八日 音沢報恩講

一九日 連研

二〇日 音沢報恩講

二二日 音沢報恩講

二五日 雪ん子忘年会

二九日 米とぎ

三〇日 もちつき

お寺の学校もちつき大会

き大会

三十一日 除夜会

空 華 忌

十一月四、五日

ご法話 梯實圓和上

(本願寺派勸学)

善巧寺十一世住職明教院釈僧録の

お祥月の法座。今年は本願寺派勸学 梯實圓和上が九年ぶりにお越し下さいます。このご縁をお見逃しなく。



十一月四日 午後七時 お初夜勤め・ご法話
十一月五日 午前十時 お日中勤め・ご法話
午後一時 お満座勤め・ご法話
*五日はお弁当の用意をしています。

報 恩 講

十月十九、二十日

「ほんこさま」はご開山親鸞聖人のご法事、浄土真宗の門徒にとって大切なご法要です。どうぞ、お誘い合わせお参り下さい。

十月十九日 午後一時半 お逮夜
午後七時 お初夜
二十日 午前十時 お日中
午後一時半 お満座

布教 発願寺若院

川崎順正師



清掃奉仕お願い
十月八日午前八時半

(雨天順延)

報恩講お待ち受けのお掃除です。どなたもご協力よろしくお願いいたします。昼食はお寺で用意致します。

ほんこさんまわり

十月十日から

親鸞聖人のおとりこし報恩講が始まります。

お仏壇は念入りにお掃除をして、よけいな物(各種お札など)がないように、すっきり整えましょう。

赤いろうそく、お香、お花、聖典、式章、お念珠を用意しましょう。

*会費は今年も九千円です。(かかり銭、板返し、寺費)

*記念事業懇志未納の方はよろしくお願いいたします。

仏教婦人会お参りの日

十一月五日午前十時

役員の方は献灯献花をします。

弁当の準備の都合上お参りの人数をお知らせ下さい。

報恩講・空華忌準備

十月 八日 清掃

十一日 お道具磨き

十七日 米とぎ

十八日 お華束・清掃

十一日 米とぎ

三日 お華束準備

屋内清掃

ご協力お願いいたします。

越冬清掃奉仕

十二月三日

(雨の場合は十日)

今年最後の清掃奉仕です。いつもご奉仕の方々がお年を召されました。

どなたでもお心のある方のご協力をお願いします。

お寺は心の相談室

あなたの心は重くありませんか。悲しいこと、苦しいこと、どうにもならないこと、仏さまの前で一緒に考えてみましょう。少しは心が軽くなるように。電話をください。

六五〇〇五五

合 掌

暑い暑い夏でした。体がすっかり衰えたかと思いましたが。いかがでしたか。

地球の温暖化、これも人間が「私が一番」と我が儘に振る舞ってきた結果でしょう。うか。この地球にはいろいろな命が生きている筈です。

花の会が二十年続きました。なんとかメンバーの力に後押ししてもらって、続いてよかった。本当に頼もしい楽しい会になりました。

◇ ◇ ◇

神子巧照君に春が来ました。満美子さんという良き伴侶を得て新しい家庭のスタートです。賑やかになるのは嬉しいことですね。

梯先生のご来講が実現します。待ちに待っていました。共にお聴聞しましょう。

